

森清名誉会長 自叙伝『夢とロマン』を出版

先ごろ、当社創業者である森清名誉会長が自らの半生を綴った自叙伝『夢とロマン ー超硬工具に情熱をかけた生涯ー』を出版いたしました。

当社も創業して半世紀以上が過ぎ、立ち上がりからの様子をつぶさに知る諸先輩方はすでに引退され、また、30年史（社史）のストックも尽き、気がつけば森名誉会長の語り以外に会社の歴史を知るよすがもなくなってしまいました。そんな状況に一念発起し、「自叙伝というより、起業に至った経緯や会社の歴史を若い人達に何とか伝えたい」との思いで完成したのが本書です。時々のできごとだけにとどまらず、人生哲学や当社社風の源流などについても森名誉会長自身の語り口で推敲されています。

さて、「温故知新」ということわざがありますが、これを言い換えて「温故求新」。つまり、「古きを省みて新しきを求めよ」ということなのですが、ここまでの当社の歩みとは、その時代時代に応じた新しい分野へのチャレンジの連続でありました。そして今現在、私たちは新たな商品開発やビジネスモデル構築に鋭意取り組んでおりますが、本書はこの「温故求新」の精神に基づき、今後どのような気持ちでチャレンジすべきか、的確なヒントを与えていております。

【本書に関する問い合わせ先】
富士精工株式会社 経営管理部
TEL：0565-53-6611
e-mail：info@c-max.co.jp



Capability

Certainty

Conception

C-max

Challenge

Confidence

Combination

Charm

第54期 中間報告書

平成23年3月1日～平成23年8月31日

 富士精工株式会社



富士精工株式会社

(証券コード6142)

株主の皆様へ (トップメッセージ)

株主の皆様におかれましては、格別のご高配に預かり、ありがたく厚くお礼申し上げます。

ここに当社グループの第54期中間報告書をお届けいたします。



取締役社長 森 誠

第54期中間期の概況

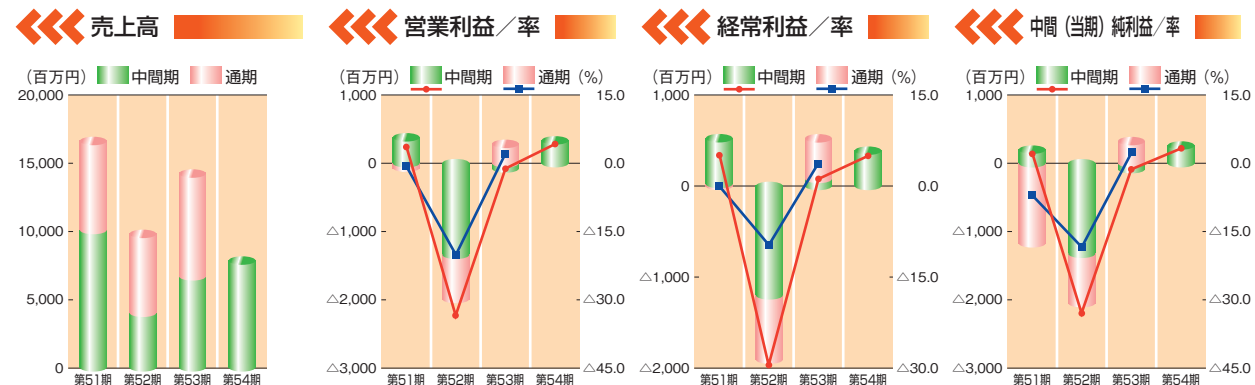
当中間期における世界経済は、中国をはじめとする新興国の成長が継続する一方で、米国・欧州など先進国は景気減速感が強まるなど、二極化の様相を呈することとなりました。

また、わが国においては、3月11日に発生した東日本大震災の影響により、それまで回復基調にあった経済活動は急速に悪化いたしました。

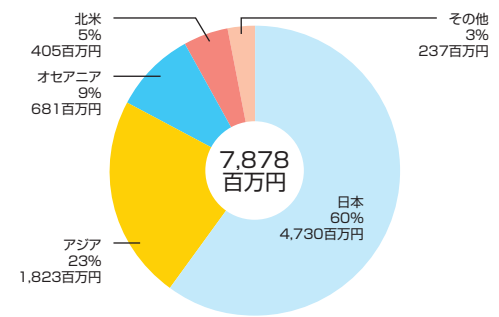
当社グループの主要な取引先であります自動車産業界におきましては、関連企業の被災により材料・部品等のサプライチェーンに甚大な支障が生じ、その結果、自動車メーカー各社とも一時的に大幅な生産調整を余儀なくされました。しかしながら、サプライチェーンの復旧と在庫の復元が急ピッチで進み、秋口ごろの完全復旧という当初見込みも大幅に前倒しされるなど、生産の回復基調が鮮明となりました。

こうした環境のもと、当社グループといたしましては、取引先及び仕入先との連携を密にし、震災の影響に対処するとともに、依然としておう盛な需要が続く新興国市場向けの設備投資等への対応に努めました。

その結果、売上高は78億7千8百万円（前年同期比16.9%増）、営業利益3億3千4百万円（前年同期は7千9百万円の営業損失）、経常利益3億9千万円（前年同期比404.9%増）、中間純利益2億5千8百万円（前年同期は8千9百万円の中間純損失）となりました。



所在地別セグメント売上高



今後の課題

今後の見通しにつきましては、新興国市場のおう盛な設備投資意欲は継続するものと思われませんが、その一方で、先進国における景気減退感が強まり、また、わが国経済でも強すぎる円高基調が続くなど、総じて先行きが見通せない厳しい状況が継続することが予想されます。

こうした中、当社グループにおきましては、コア技術である「特殊ツーリング」を活用した以下のテーマを中長期的な経営戦略に掲げ、事業力の強化に努めてまいります。

中間配当の見送り

中間配当につきましては、今後の事業展開に備えた内部留保の必要性に鑑み、経営体質、財務体質の強化を図るため、誠に遺憾ではございますが、無配とさせていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【特殊工具のオンリーワン・カンパニーとなる】
特殊工具の市場規模は縮小傾向にあり、同業他社においては、特殊工具や採算性に問題のあるアイテムを手離すケースも出てきておりますが、特殊工具のニーズ自体は今後も継続することが予想されます。こうした状況に鑑み、当社グループで

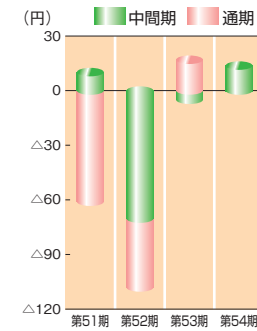
は、特定のアイテムについては当社グループがその製作を一手に担い「特殊工具のオンリーワン・カンパニー」たる存在をめざし、市場の要請に応じてまいり所存です。

【加工点のトータル・エンジニアリング・カンパニーとなる】
自動車産業における技術者不足は、依然として解消されておらず、これを補完するというニーズは継続的に存在しています。当社グループでは、これまで取り組んできたFTE事業を以下のような観点から強化することで、「加工点のトータル・エンジニアリング・カンパニー」たる存在感を示し、顧客の要請に応じてまいり所存です。

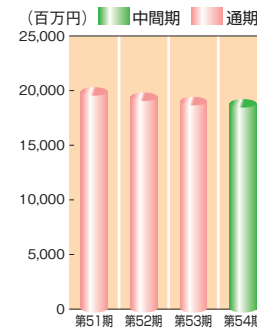
- ・新興国市場や自動車産業以外の業界に対して、「寄せ止め工具の提案」「工具・治具のセット販売」「治具・設備載せ換えのセット販売」を展開する。
- ・新興国市場を中心にFTSビジネス（工具管理業務）を継続展開し、客先との長期にわたる関係を築く。
- ・さらに機械加工分野の上流部分を取り込むため、「試作」分野（切削・金型）を強化する。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

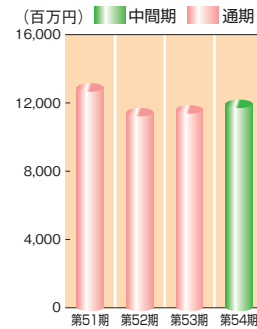
1株当たり純利益



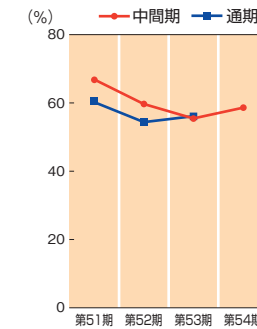
総資産



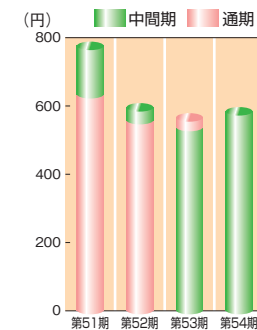
純資産



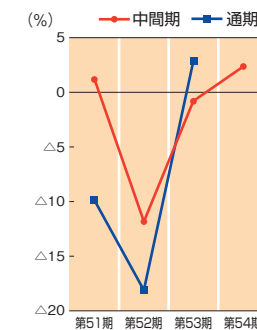
自己資本比率



1株当たり純資産



ROE(自己資本利益率)



中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

単位:百万円

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		平成23年8月31日現在	平成22年8月31日現在	平成22年2月28日現在
(資産の部)				
流動資産		9,058	8,883	9,530
固定資産		9,766	9,477	9,481
有形固定資産		7,148	7,356	7,220
無形固定資産		167	152	164
投資その他の資産		2,450	1,968	2,096
資産合計		18,824	18,360	19,012
(負債の部)				
流動負債		2,773	2,911	3,063
固定負債		4,101	4,387	4,355
負債合計		6,874	7,299	7,419
(純資産の部)				
株主資本		11,680	11,009	11,422
評価・換算差額等		△625	△823	△681
新株予約権		1	-	-
少数株主持分		893	876	852
純資産合計		11,950	11,061	11,592
負債純資産合計		18,824	18,360	19,012

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位:百万円

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		平成23年3月1日から平成23年8月31日まで	平成22年3月1日から平成22年8月31日まで	平成22年3月1日から平成22年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		382	△302	△93
投資活動によるキャッシュ・フロー		△808	△255	△332
財務活動によるキャッシュ・フロー		△278	△422	△624
現金及び現金同等物に係る換算差額		37	△79	△62
現金及び現金同等物の減少額(△)		△666	△1,059	△1,112
現金及び現金同等物の期首残高		3,062	4,175	4,175
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		2,396	3,115	3,062

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書(要旨)

単位:百万円

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		平成23年3月1日から平成23年8月31日まで	平成22年3月1日から平成22年8月31日まで	平成22年3月1日から平成22年2月28日まで
売上高		7,878	6,737	14,303
売上原価		6,138	5,488	11,368
売上総利益		1,739	1,248	2,934
販売費及び一般管理費		1,404	1,327	2,650
営業利益または営業損失(△)		334	△79	284
営業外収益		157	245	410
営業外費用		102	89	170
経常利益		390	77	523
特別利益		1	9	174
特別損失		16	42	146
税金等調整前中間(当期)純利益		374	44	551
法人税、住民税及び事業税		77	64	132
法人税等調整額		△1	14	17
少数株主利益		39	55	77
中間(当期)純利益または中間純損失(△)		258	△89	323

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point (中間連結貸借対照表)

前期末と比較して、総資産が1億8千7百万円減少して188億2千4百万円となりました。これは主に流動資産が4億7千2百万円減少したものの、投資有価証券の取得等により固定資産が2億8千5百万円増加したことによるもので、負債は金融機関への借入金の返済等により5億4千4百万円減少しております。また、純資産は前期末と比較して、3億5千7百万円増加いたしました。

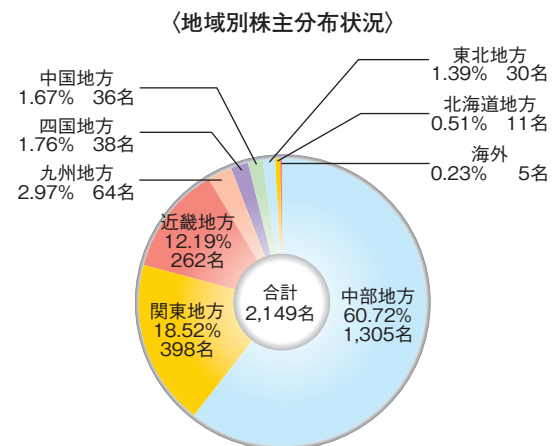
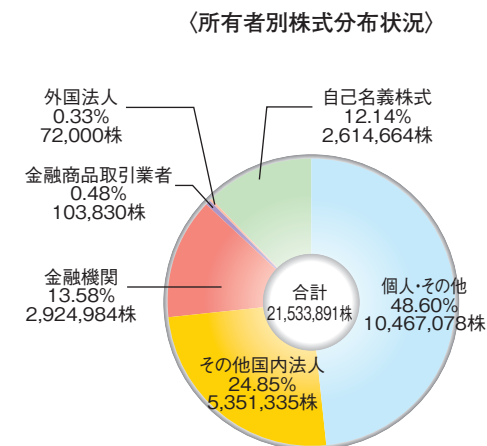
Point (中間連結損益計算書)

生産・販売ともに回復の傾向を受けて、売上高は前中間期と比較して16.9%増の78億7千8百万円となり、営業利益3億3千4百万円となりました。また、受取利息2千6百万円、持分法による投資利益4千3百万円、デリバティブ評価益3千6百万円がそれぞれ増加したことから経常利益3億9千万円を計上いたしました。

Point (中間連結キャッシュ・フロー計算書)

売上債権の増加、有形固定資産の取得による支出、金融機関からの借入金の返済による支出等により、当中間期で使用した資金は7億4千万円となりました。その結果、前期末と比較して、当中間期の現金及び現金同等物の残高は6億6千6百万円減少の23億9千6百万円となりました。

株式構成

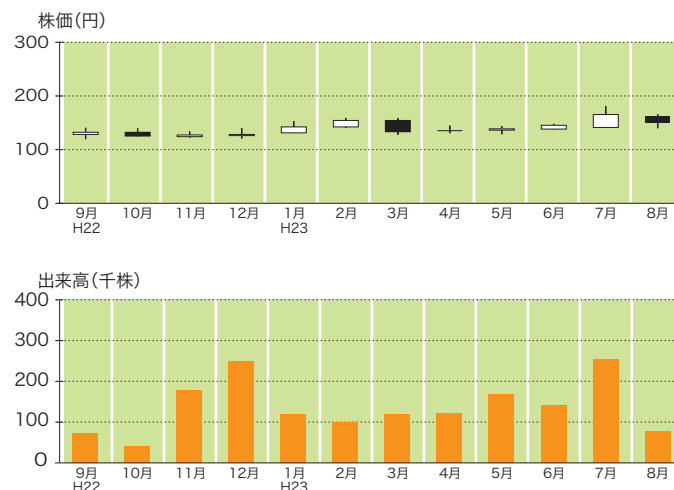


大株主（上位10名）

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
株式会社ナステック	1,161,000	6.13
有限会社シーマックス	1,150,000	6.07
株式会社晃 永	1,050,000	5.54
森 誠	851,000	4.49
富士精工従業員持株会	746,378	3.94
株式会社大垣共立銀行	558,877	2.95
株式会社三菱東京UFJ銀行	461,041	2.43
森 仁 志	422,000	2.23
三菱マテリアル株式会社	386,743	2.04
第一生命保険株式会社	313,000	1.65

（注）当社は、自己株式2,614,664株を保有しておりますが、上記上位10名の株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株価の推移



会社概要

商号 富士精工株式会社
FUJI SEIKO LIMITED
創立 昭和33年(1958年)3月
本社 愛知県豊田市吉原町平子26番地
資本金 28億8,201万円
従業員数 連結 1,532名 単体 475名
主要事業 超硬工具、ダイヤモンド工具、その他切削工具、
工具保持具、治具、計測機械器具、
自動車部品等の製造販売
研削砥石等の販売

役員 (平成23年8月31日現在)

取締役社長	森 誠
常務取締役	安藤 功
常務取締役	鈴木 龍城
取締役	水谷 肇
取締役	近藤 国夫
取締役	片山 貴雄
常勤監査役	神谷 敏朗
監査役	菅 正英
監査役	下山田 隆信

（注）取締役片山貴雄氏は、社外取締役です。
監査役菅 正英氏、下山田隆信氏は、社外監査役です。

株主メモ

事業年度 3月1日～翌年2月末日
定時株主総会 5月
基準日 2月末日(定時株主総会・期末配当)
8月31日(中間配当)
その他必要ある場合はあらかじめ公告いたします。

単元株式数 1,000株
公告方法 当社公告につきましては、当社ホームページ(<http://www.c-max.co.jp/>)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所 名古屋市中区栄三丁目15番33号
中央三井信託銀行株式会社
名古屋支店 証券代行部
電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

上場金融商品取引所 名古屋証券取引所

お知らせ

- 住所変更、単元未満株式の買い取り・買い増し等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 株主様のご住所・お名前に使用する文字について
株券電子化実施にともない、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置き換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字につきましては、お取り引きの証券会社等にお問い合わせください。